

令和6年度 学校評価シート

学校名：専修学校 クラーク高等学院 姫路校

目指す学校像	「社会で活躍できる人材育成」
育てたい生徒像	1. 基礎学力と基本的な人間力を身に付け、将来の夢を見つけることができる生徒 2. 非認知能力を向上させ、変化する社会で主体的に行動できる生徒 3. 一人ひとりが3年間を全うし、卒業後の希望進路実現を目指す生徒

本年度の重点目標	1 基礎学力とコミュニケーション能力、自学自習の習慣を身に付けさせ、自律的学習者として育成する
	2 ピア学習や探究学習等を通して、豊かで逞しい人間力と確かな実践力を養成する
	3 教職員のチーム体制を再構築し、3年間を通して進路実現を図る

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自 己 評 価					令和6年度評価(2月27日現在)		
年 度 目 標					令和6年度評価(2月27日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	<p><現状> 在校生の80%以上が不登校経験者で、学力不振や対人不安等の課題を抱えている。また、学力差が大きく学習意欲の低い生徒が多い。</p> <p><課題> ・登校支援 ・学力把握と基礎学力の定着 ・個別最適な学習体制、環境の改善と整備</p>	基礎学力の定着	・基礎学力チェックテストの実施 ・チームティーチングによる指導体制の強化	・効果的な授業進行ができたか。 ・基礎学力の定着が図れたか。	チームティーチングによる指導体制の強化により、効果的な授業進行の基盤ができた。	B	・基礎学力の定着度に合わせ一人ひとりの学習進捗を管理し、学習コーチングする。 ・リフレクション活動の中で「できなかったこと」に対する次の取組について明確に計画する。 ・朝学習や長期休暇を活用し、効果的な学習機会を提供して学習意欲の向上を目指す。
		コミュニケーション能力の定着	・自己理解の深化 ・個々の学校活動に対する支援	・個々の習熟度に合わせた自己分析ができたか。 ・一対一の対話によるリフレクション活動を進められたか。	対話によるリフレクション活動を進めることができ、個々の習熟度に合わせた支援につながった。	A	
		自律的学習者の育成	・個別最適な授業スタイルの構築 ・朝学習や放課後学習、長期休暇講習等の推進	・EdTech教材を的確に活用し、個々の学習状況を管理できたか。 ・効果的な学習機会を提供できたか。	EdTech教材の活用が進んだが、個々に合わせた効果的な学習機会を提供するには至らなかった。	B	
2	<p><現状> 主体的に表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。効果的なピア学習、探究学習活動が構築できていない。</p> <p><課題> ・3年間を通じた支援、指導体制の確立 ・多様な生徒への対応 ・個々の主体的な活動への支援</p>	ピアアシスタント 基礎課程の取得	・年間を通じた継続的な指導 ・個々に応じた効果的な指導と支援	1年修了時に取得できたか。	個々の成長につながる実践を取り入れ、自己理解が深まったが、登校支援が必要な生徒への対応は十分ではなかった。	B	・ピア学習を通して身に付けた力を周囲への支援につなげる実践的な取組の機会を増やす。
		効果的な探究学習活動	・探究学習の改善 ・3年間を通じた継続的な指導	・各年次の年間指導計画を構築、改良できたか。 ・生徒自身の満足度	・各授業間の連携を取ることができた。 ・各年次の満足度にバラつきがあった。	A	・各年次の取組だけにこだわらず、個々の習熟度に合わせた支援する探究学習活動を構築する。
		主体的な活動に対する実践力の養成	・個々の活動に対して必要な非認知能力の理解 ・適切なリフレクション活動	・実践力として発揮できたか。 ・次の目標へ向かうリフレクションができたか。	・個々の活動に必要な力についての理解が深まった。 ・教員間での指導力に差があった。	B	・個々の活動や成果に関する情報を継続的に共有し、教員間での共通理解に努める。
3	<p><現状> 1、2年次の進路指導が不十分のため、生徒、保護者ともに意識が低い。大学進学率と進路決定率が安定していない。</p> <p><課題> ・1、2年次からの進路指導の徹底 ・教職員間の情報共有や指導力の差 ・個々に合わせたコーチング</p>	進路3か年計画の共通理解と推進	・3年間の活動に関する理解の深化（保護者会等） ・二者、三者面談での継続的な進捗確認とコーチング	・多様な入試への理解を深められたか。 ・生徒、保護者の満足度	求められる力を身に付けるための取組に関する理解を十分に深められなかった。	B	・多様な入試に求められる力を継続的に発信し、個々の希望進路実現に向けた進捗確認を徹底する。
		チーム体制による進路指導の強化	・3年間を通じた情報共有の徹底と進捗確認 ・進路指導課による研修や勉強会	・定期的な会議を実施できたか。 ・研修や複数教員による協議ができたか。	不定期の会議にとどまってしまったため、十分に協議できなかった。	B	・進路指導に関する一人ひとりのデータを共有し、複数教員で役割を分担して指導する。
		多様な希望進路に対する指導力の向上	・外部研修会への参加 ・授業力と面談力の研修	・新たな情報収集やそれらの理解に努めたか。 ・定期的な研修の実施ができたか。	外部、内部を問わず研修会に積極的に参加し、情報収集と共通理解に努めた。	A	・研究授業や面談力の研修を計画的に実施する。

学校関係者評価	
実施日	令和7年2月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>対話によるリフレクション活動を通してコーチングを進めることができたことは評価できる。学力向上に向けたEdTech教材の更なる活用と個々に合わせた効果的な支援を期待したい。生徒自身が目標を設定し、学習状況を把握しながら意欲的に学習に向かうことが重要である。</p> <p>長期休暇の効果的な活用として、不登校生徒への支援だけでなく、個々の習熟度に合わせた学習機会の提供にも尽力してもらいたい。</p>	
<p>身に付けるべき力を理解させ、実践につなげる仕組みを継続的に創り出していたことは評価に値する。一人ひとりが自己理解を深め、主体的に行動できたことで個々の成長を感じる機会が増えた。</p> <p>身に付けたコミュニケーション能力を探究学習活動や個々の活動の中で発揮することが重要である。様々な活動について適切な振り返りを行って進捗状況を確認し、生徒自らが次の目標設定まで進めるよう丁寧に支援してもらいたい。</p>	
<p>一人ひとりの希望進路の実現に向けた工夫が見られ、チームによる進路指導体制の中での役割が明確になってきた。これからの時代には基礎学力と非認知能力の両方が必要なことを全教員が理解し、指導力向上を目指してもらいたい。</p> <p>多様な希望進路の決定に向けて、挑戦し続けられる環境作りがポイントである。常に個々の進捗状況を把握し、教員間での情報共有を徹底してもらいたい。</p>	